



## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月28日

上場会社名 株式会社 WOWOW

上場取引所 東

コード番号 4839 URL <http://www.wowow.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 和崎 信哉

問合せ先責任者 (役職名) IR経理局長

(氏名) 大熊 和彦

TEL 03-4330-8097

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	49,246	0.6	6,037	12.7	6,645	18.7	3,880	△2.3
22年3月期第3四半期	48,930	△2.1	5,358	33.5	5,598	28.2	3,970	34.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	26,908.84	—
22年3月期第3四半期	27,532.28	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	47,146	26,888	56.6	185,131.20
22年3月期	44,457	23,729	53.0	163,322.56

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 26,699百万円 22年3月期 23,554百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	3,000.00	3,000.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	3,000.00	3,000.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,000	0.7	5,900	6.1	6,000	2.0	3,600	△20.2	24,961.52

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 144,222株 22年3月期 144,222株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 一株 22年3月期 一株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 144,222株 22年3月期3Q 144,222株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(第3四半期連結累計期間) .....	7
(第3四半期連結会計期間) .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) セグメント情報 .....	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
4. 補足情報 .....	11
(1) 販売の状況 .....	11
(2) 四半期単体情報（参考） .....	11

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期(4月～12月)におけるわが国経済は、個人消費に持ち直しの動きが見られたものの、長引く円高や失業率が高水準にあることなどから、先行き不透明な状況が続いております。放送業界におきましては、広告市況は企業収益の改善を背景に緩やかな回復基調に入っておりますが、依然として厳しい状態にあります。

このような環境下、当第3四半期連結累計期間における収支の状況は、放送関連では加入件数が堅調に推移、テレマーケティング関連では厳しい状況の中、外部顧客からの収入を確保できたことにより、売上高は492億46百万円と前年同期に比べ3億15百万円(0.6%)の増収となりました。当社グループ全体としての売上原価低減により、営業利益は60億37百万円と前年同期に比べ6億79百万円(12.7%)の増益となり、また経常利益は、円高による為替差益の計上等により66億45百万円と前年同期に比べ10億47百万円(18.7%)の増益となりました。四半期純利益は、投資有価証券評価損2億円を計上したこと並びに前年同期に存在した一時差異の解消により法人税等が増加したため、38億80百万円と前年同期に比べ89百万円(2.3%)の減益となりました。

当社グループは、放送衛星を使った放送事業に係るサービスを行う「放送」、放送事業に係る顧客管理業務を含む「テレマーケティング」の2つを報告セグメントとしております。各セグメントの状況は次の通りです。

#### (i) 放送

平成23(2011)年7月に予定されている放送の完全デジタル化以降もNo.1プレミアム・ペイチャンネルであり続けるため、当第3四半期においても引き続きオリジナルコンテンツの強化および話題性のある質の高い番組の編成に努めました。

オリジナルドラマ製作プロジェクト「ドラマW」では、連続ドラマW「パンドラII 飢餓列島」、「マークスの山」、東野圭吾「幻夜」のほか、ドラマWスペシャル「なぜ君は絶望と闘えたのか」を放送しました。平成22(2010)年9月に放送した「なぜ君は絶望と闘えたのか」は、平成22年度(第65回)文化庁芸術祭のテレビ部門・ドラマの部で大賞に選出されました。

そして、最大の商戦期である12月には、福山雅治の年越しライブや、矢沢永吉の日本武道館ライブを独占放送したことに加え、映画「アバター」をはじめとした年末年始の強力な映画ラインナップがお客さまの支持を集め、新規加入を大きく牽引しました。

営業施策としては、BSアナログ放送が終了する平成23(2011)年7月に向けて、アナログ放送をご契約のお客さまにダイレクトメールや電話などでデジタル放送のご契約を積極的に働きかけることに加え、平成22(2010)年10月1日からはアナログ放送画面に「アナログ」ロゴを常時表示し、注意を喚起しております。

新たな伝送路での展開としては、平成22(2010)年6月1日より「スカパー!HD」のプラットフォーム上でデジタルWOWOWの放送をスタートし、平成22(2010)年10月1日からIPTVサービス「ひかりTV」における放送を開始しました。

また、平成22年(2010)年10月には、総合エンターテインメントチャンネルであるWOWOWの魅力により多くのお客さまに感じていただくことを目的として、開局以来最大のオリジナルイベント「WOW FES! 2010」を4日間開催したほか、平成22(2010)年11月20日からは、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社と提携し、Tポイントサービスを開始しました。

映画製作では、平成22(2010)年4月にWOWOW FILMS「武士道シックスティーン」を公開し、映画ファンを中心に観客動員が堅調に推移しました。WOWOW FILMS製作参加作品として「ソラニン」、「ゼブラマン -ゼブラシティの逆襲-」、「ボックス!」、「ソフトボーイ」、「雷桜」、WOWOW FILMS提供作品として「ノルウェイの森」を公開しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における放送セグメントの売上高は467億73百万円、セグメント利益は50億64百万円となりました。また、当第3四半期(4月～12月)の新規加入件数等は次表の通りとなりました。デジタルダブル契約(注)は、当第3四半期末時点において271,556件(前年同期に比べ91,941件の増加)となっております。

契約種別	新規加入件数	解約件数	正味加入件数	デジタル移行件数	累計正味加入件数
アナログ (対前年同期増減率)	37,096 (△43.0%)	105,378 (△27.9%)	△68,282 (-)	△148,907 (-)	260,448 (△52.9%)
デジタル (対前年同期増減率)	587,621 (16.6%)	458,011 (21.9%)	129,610 (0.8%)	148,907 (38.9%)	2,291,346 (16.3%)
合計 (対前年同期増減率)	624,717 (9.7%)	563,389 (8.0%)	61,328 (29.0%)	-	2,551,794 (1.1%)

(注) デジタルダブル契約は「同一契約者による2つ目のデジタル契約」のことで、割引料金を適用(月額2,415円の視聴料金を945円に割引。金額は税込み)。

(ii) テレマーケティング

連結子会社の株WOWOWコミュニケーションズにおいて、テレマーケティング業務受託、各種コンタクトセンター受託運営を行っております。市場環境が厳しい中、既存顧客の維持と新規顧客への積極的な営業展開を図るとともに生産性の向上に取り組み、当第3四半期連結累計期間におけるテレマーケティングセグメントの売上高は53億66百万円、セグメント利益は9億91百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、471億46百万円となり、前連結会計年度末に比べ26億88百万円の増加となりました。主な要因は、有形固定資産・その他、流動資産で番組勘定、売掛金等が増加したことによるものであります。

負債は、202億57百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億69百万円の減少となりました。主な要因は、流動負債で前受収益等が減少したことによるものであります。

純資産は、268億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億58百万円の増加となりました。主な要因は、四半期純利益の計上等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.6ポイント上昇し、56.6%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ1億9百万円増加し、70億91百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は14億25百万円（前年同期比18億64百万円減）となりました。主なプラス要因は、税金等調整前四半期純利益64億27百万円の計上等であり、主なマイナス要因は、法人税等の支払額20億47百万円並びに前受収益の減少額18億17百万円等であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は7億69百万円（前年同期比4億80百万円減）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出6億34百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は4億52百万円（前年同期比9億83百万円減）となりました。主な要因は、配当金の支払額4億32百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年5月14日に公表いたしました連結業績予想の修正は行っておりません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- ① 加入者獲得・維持に関わるリスク
- ② 加入代理店に関わるリスク
- ③ B S（放送衛星）利用に関わるリスク
- ④ 当社の地上設備に関するリスク
- ⑤ B Sアナログ放送の直接受信におけるデコーダに関わるリスク
- ⑥ B-CASカードのセキュリティーに関わるリスク
- ⑦ コンテンツに関わるリスク
- ⑧ 映画製作・配給投資に関わるリスク
- ⑨ 著作権などの知的所有権に関わるリスク
- ⑩ 放送関連法制度などの変化に関わるリスク
- ⑪ B Sアナログ放送の終了に関わるリスク
- ⑫ B Sアナログ放送の終了時期変更に関するリスク
- ⑬ 加入者の個人情報保護に関わるリスク
- ⑭ 為替レートの変動に関するリスク

各リスク項目の詳細につきましては、当社IRウェブサイト ([http://www.wowow.co.jp/co\\_info/ir](http://www.wowow.co.jp/co_info/ir)) 「IR資料室」に掲載しております第26期有価証券報告書(平成22年6月24日提出)の「企業情報」「事業の状況」「4事業等のリスク」をご覧ください。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①簡便な会計処理

(法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境及び一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

#### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これに伴う営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は、軽微であります。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,091	6,982
売掛金	3,260	2,634
番組勘定	13,782	12,882
貯蔵品	54	56
その他	2,497	2,028
貸倒引当金	△114	△97
流動資産合計	26,573	24,487
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,000	1,799
機械及び装置（純額）	1,834	2,012
その他（純額）	2,555	1,533
有形固定資産合計	6,390	5,345
無形固定資産		
借地権	5,011	5,011
のれん	47	63
その他	2,021	2,423
無形固定資産合計	7,080	7,498
投資その他の資産		
投資有価証券	5,852	5,790
その他	1,330	1,425
貸倒引当金	△80	△89
投資その他の資産合計	7,102	7,126
固定資産合計	20,572	19,970
資産合計	47,146	44,457

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,166	11,207
未払法人税等	1,532	1,187
賞与引当金	45	65
機械設備撤去費用引当金	46	15
その他	5,968	6,587
流動負債合計	18,759	19,062
固定負債		
退職給付引当金	1,182	1,315
機械設備撤去費用引当金	—	31
その他	316	318
固定負債合計	1,498	1,664
負債合計	20,257	20,727
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	2,738	2,738
利益剰余金	19,341	15,893
株主資本合計	27,079	23,631
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	87	41
繰延ヘッジ損益	△467	△117
評価・換算差額等合計	△379	△76
少数株主持分	188	175
純資産合計	26,888	23,729
負債純資産合計	47,146	44,457



(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	48,930	49,246
売上原価	24,486	23,387
売上総利益	24,444	25,859
販売費及び一般管理費	19,086	19,822
営業利益	5,358	6,037
営業外収益		
受取利息	3	3
持分法による投資利益	156	235
為替差益	52	330
その他	44	46
営業外収益合計	256	615
営業外費用		
支払利息	4	0
その他	11	6
営業外費用合計	16	6
経常利益	5,598	6,645
特別利益		
貸倒引当金戻入額	64	13
契約解除料返還益	—	31
特別利益合計	64	44
特別損失		
固定資産除却損	3	18
投資有価証券評価損	57	200
ゴルフ会員権評価損	4	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	43
特別損失合計	65	263
税金等調整前四半期純利益	5,597	6,427
法人税、住民税及び事業税	1,587	2,408
法人税等調整額	19	109
法人税等合計	1,607	2,518
少数株主損益調整前四半期純利益	—	3,908
少数株主利益	19	27
四半期純利益	3,970	3,880

(第3四半期連結会計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	16,341	16,574
売上原価	8,604	8,025
売上総利益	7,737	8,548
販売費及び一般管理費	6,877	7,114
営業利益	859	1,434
営業外収益		
受取利息	0	0
持分法による投資利益	59	55
為替差益	138	108
その他	13	16
営業外収益合計	211	180
営業外費用		
その他	1	2
営業外費用合計	1	2
経常利益	1,069	1,612
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4	4
特別利益合計	4	4
特別損失		
固定資産除却損	1	15
投資有価証券評価損	0	—
特別損失合計	1	15
税金等調整前四半期純利益	1,072	1,601
法人税、住民税及び事業税	325	606
法人税等調整額	△22	2
法人税等合計	303	609
少数株主損益調整前四半期純利益	—	992
少数株主利益	7	11
四半期純利益	762	980

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,597	6,427
減価償却費	1,441	1,502
のれん償却額	15	15
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	43
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△649	8
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△73	△19
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	37	△133
受取利息及び受取配当金	△23	△29
支払利息	4	0
為替差損益 (△は益)	49	93
持分法による投資損益 (△は益)	△156	△184
固定資産除却損	3	18
投資有価証券評価損益 (△は益)	57	200
ゴルフ会員権評価損	4	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△360	△636
前受収益の増減額 (△は減少)	△1,109	△1,817
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,935	△898
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,983	△64
未払消費税等の増減額 (△は減少)	20	△118
その他の資産の増減額 (△は増加)	228	△573
その他の負債の増減額 (△は減少)	81	△392
小計	5,219	3,443
利息及び配当金の受取額	23	29
利息の支払額	△4	△0
法人税等の支払額	△1,947	△2,047
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,290	1,425
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△938	△634
無形固定資産の取得による支出	△279	△153
敷金及び保証金の差入による支出	△43	△0
敷金及び保証金の回収による収入	—	18
その他	10	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,250	△769
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△810	—
割賦代金の支払による支出	△84	△1
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△86	△3
配当金の支払額	△432	△432
少数株主への配当金の支払額	△22	△14
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,435	△452
現金及び現金同等物に係る換算差額	△49	△93
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	554	109
現金及び現金同等物の期首残高	6,363	6,982
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,917	7,091

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

放送事業に関するサービスを行う単一事業のため該当事項はありません。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

本国(日本)以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社及び子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するため、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、本国(日本)において放送事業に関するサービスを行っており、当該サービスの一つとして当社の連結子会社である株WOWOWコミュニケーションズが当社及び外部から委託を受け、当社の顧客管理業務及びテレマーケティング業務を行っております。株WOWOWコミュニケーションズは、当社の顧客管理業務については当社戦略に基づき、テレマーケティング業務に関しては独自の戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、放送事業に関するサービスを行う単一の事業を行っており、放送衛星を使った放送事業に係るサービスを行う「放送」、放送事業に係る顧客管理業務を含む「テレマーケティング」の2つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	放送	テレマーケティング	計		
売上高					
外部顧客への売上高	46,773	2,473	49,246	—	49,246
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	2,893	2,893	△2,893	—
計	46,773	5,366	52,140	△2,893	49,246
セグメント利益	5,064	991	6,055	△18	6,037

(注) 1. セグメント利益の調整額△18百万円には、のれん償却額△15百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

[追加情報]

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

#### 4. 補足情報

##### (1) 販売の状況

当第3四半期連結累計期間における売上高実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	売上高（百万円）	前年同四半期比（%）
放送	46,773	—
テレマーケティング	2,473	—
合計	49,246	100.6%

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
 3. 販売の相手先は一般視聴者であり、主な相手先別に記載するべきものではありません。  
 4. 放送セグメントには有料放送収入44,995百万円を含んでおります。

##### (2) 四半期単体情報（参考）

###### ① 単体経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	46,696	0.6	5,017	7.5	5,719	10.2	3,403	△12.0
22年3月期第3四半期	46,432	△0.9	4,668	60.4	5,187	50.1	3,866	52.1

	総資産		純資産	
	百万円		百万円	
23年3月期第3四半期	42,244		22,411	
22年3月期	39,748		19,743	

(注) 単体経営成績（累計）の数値は、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

###### ② 単体業績予想

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	62,600	0.8	4,800	5.5	5,100	0.1	3,100	△25.7	21,494	64

(注) 当四半期における業績予想の修正はありません。